

日中経済交流研究会10月例会

中国のゲートウェイ “香港”の魅力を探る

報告者 大阪府商工労働部 成長産業振興室 特区・立地推進課
アジア統括マネージャー 小堤 敏郎氏

日時 10月16日(水) **場所** 大成閣 **参加者数** 24名

例会の冒頭、樋爪会長のあいさつで、第一次上海蘇州訪中団の帰国便が、台風の影響で飛ばないトラブルに遭遇したことを知りました。そんなアクシデントも「こんなことはお金を出してもできない体験だと言われる会長の“国際級のプラス思考”に感心しているうちに例会報告が始まりました。

今月の報告者は大阪府商工労働部成長産業振興室 特区・立地推進課アジア統括マネージャーの小堤敏郎氏です。アジアのゲートウェイ：皆さんご存じの香港の話です。香港は大阪に比べ人口、経済規模、面積では一回り小さいのですが訪問客は実に10倍の年間4,000万人が訪れる国際都市です。商取引の自由度が高く、輸出入の関税ゼロ。外貨移動の制限なし。会社設立の制限も少なく撤退も簡単というのは、中国本土とは大きく違うそうです。法人税の低さなどTax heavenではないが日本に比べれば天国に近い国ということです。とにかく世界の人、モノ、金、情報が集まる。その結果企業も集まる。そんな香港の企業を経由することで、日中



報告者 小堤氏 ▲



例会風景 ▲

間の商習慣でのトラブルを解消することもできるそうです。

いいこと尽くめのようだが、最近では香港にも中国政府の影響が強まり企業数も減り始めているとか。何もかもが好条件の国は世界中どこにもない。重要なことは私たち自身が何をしたいのかが必要なかを明確にし、それに最も適している国や地域をうまく活用することです。

これからはTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)、CEPA(香港・中国経済貿易緊密化協定)ECFA(两岸経済協力枠組協議)その他ASEAN自由貿易などアジアはますます自由で熱くなるものと思われます。我々は、海外進出するかしないかにかかわらず世界の影響を受けることになります。できれば自分の目でアジアを見るのが一番です。

日中経済交流研究会はアジアにつながるゲートウェイです。皆さん次回の例会にはぜひご参加いただきたいと思います。



文：福地金属(株)
代表取締役 福地 守